



CESS<sup>\*</sup>(Committee for Expertise of Shipbuilding Specifics＝造船関係専門委員会)は2016年7月13日に韓国・釜山(プサン)にて、年次総会を開催した。日本、欧州、中国、韓国、米国の造船団体等が参加し、世界の造船業を取り巻く主要問題について議論を交わした。今次総会は韓国の主催にて開催された。各国代表は過去1年間のCESS活動のレビューと今後の活動計画の検討を行ったほか、造船業界の課題に対する業界共通の意見発信におけるさらなる連携について意見交換が行われた。

出席者は、CESSが規制問題といった重要課題に対し、意見を共有し、共通の立場を形成するプラットフォームとして訴えを行い、関連海事団体にこれらの意見を発信してきたことを確認した。また、昨年11月に発足した造船関連団体ASEF(Active Shipbuilding Experts' Federation)と共通の目的・目標のためにお互いの活動を補完しながら、協調していくことを同意した。

各国代表は現在進行中の重要課題について議論した。特に船舶の温室効果ガス排出削減について議論が行われたが、EEDI規制は折り返し地点である今年のフェーズ1を過ぎ、次のフェーズ2に焦点が当たっている。パリ協定が採択された今、造船業界は省エネルギー技術について、今後のEEDI規制フェーズで定められた目標を達成するために重要な役割を果たすとの期待が高まっている。造船業界は、新造船と現存船に対する実践的、且つ効率的な問題解決へ向けた貢献を継続していく。

さらに、IMOのゴールベーススタンダードに基づく安全のための設計の透明性の規制要件を満たす知的財産権保護といった現在進行中の種々の課題にも議論が及んだ。この基準に対して、業界ガイドラインが形成され、IMOの正式な認知を受けた。これは海運・船級・造船業界の、業界を超えた努力による初の功績であり、すべてのCESSメンバーがこの重要な功績へ向け、困難な作業に取り組んだ。

2015年のパリMOU及び東京MOUのポートステートコントロール(PSC)の活動についても評価がなされた。両地域におけるPSC活動はこれまで同様、着実に実行されており、船舶の品質はおおむね向上していることが報告された。報告では、造船品質

---

<sup>\*</sup> 旧称:サブスタンダード船排除委員会(Committee for Elimination of Substandard Ships)。2005年の中国・杭州で開催されたJECKU TEM以降、新名称に変更し機能を拡大し活動を開始。

CESS 2016  
Press Release

に起因する船舶欠陥件数は依然少なく、拘留船舶数も昨年より改善したことが示された。一方、冷凍船や一般貨物船のような、高齢船と特徴づけられる船種の拘留率は平均を上回っており、そのような高齢船が新造船、またはその他船種にリプレースされることで拘留率は改善される可能性がある。

海事産業を管理する規則・規制は必要性の高まりによって変化しており、造船業界はそれらの規則・規制に対する専門知識を用いることでより積極的な役割を担う必要がある。CESS メンバー団体は、将来の造船業界の繁栄のためには、メンバー間のさらなる結束がより一層の重要性と効果を持つことを確認した。今後 1 年間では、さらなる活動と前述の諸問題に対する共同の解決策の促進が CESS の業務継続に必要不可欠である。

CESS は 2016 年 10 月 20 日に韓国・慶州 (キョンジュ) にて開催予定の JECKU TEM (五極造船首脳会議) で活動報告を行う。

2016 年 8 月 1 日

CESS 造船関係専門委員会  
委員長 岩本 洋 (Dave Iwamoto)

(気付)

一般社団法人日本造船工業会  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-15-12  
日本ガス協会ビル 3 階  
minato@sajn.or.jp